

山鳥坂ダム工事事務所 ダム事業費等監理委員会

—山鳥坂ダム建設事業—

山鳥坂ダム建設事業について

平成28年7月

山鳥坂ダム工事事務所

事業概要

山鳥坂ダム建設事業の主な経緯

平成 4 年	4 月	建設事業着手
平成 6 年	8 月	特定多目的ダム法の基本計画公示（事業費 約1,070億円）
平成13年	5 月	分水量を縮小した「見直し案」を提示
平成14年	5 月	中予分水を除外した上で計画を再構築した「再構築計画案」を提示
平成15年	10月	「肱川水系河川整備基本方針」策定
平成16年	5 月	「肱川水系河川整備計画」策定
平成17年	4 月	特定多目的ダム建設事業から直轄河川総合開発事業に移行（事業費 約850億円）
	10月	特定多目的ダム法に基づく基本計画を廃止
平成18年	7 月	地権者協議会とダム事業に関する基本協定書を締結（用地調査の開始）
平成20年	5 月	環境影響評価手続き完了 ダム事業費等監理委員会設立（毎年実施）
	7 月	山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会設立
	8 月	市道拡幅工事（工事用道路工事）着手
平成21年	9 月	用地補償基準（案）を地権者協議会が了承
	10月	国土交通大臣が平成21年度におけるダム事業の進め方について発表「当初予定していた新たな段階に入ることとなる用地買収の着手を取りやめる事業」となる
	12月	国土交通大臣が新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業を設定する考え方について発表 山鳥坂ダムは検証対象ダムとなる
平成22年	9 月	国土交通大臣よりダム事業の検証に係る検討指示
平成25年	1 月	国土交通省の対応方針について「継続」決定
	3 月	損失補償基準に関する協定書調印式
平成27年	7 月	四国地方整備局事業評価監視委員会の開催（※審議の結果、事業継続は「妥当」）

事業概要

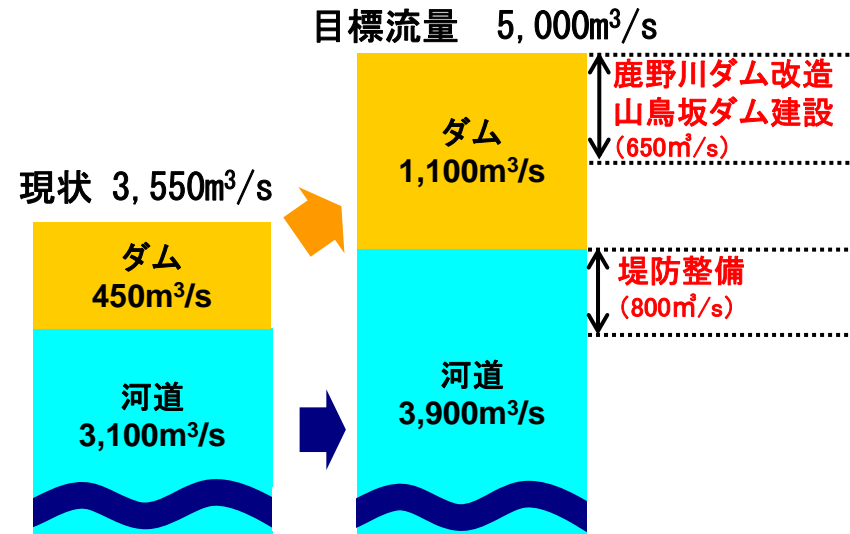
肱川水系河川整備計画(H16.5策定)[ダム関係]

■治水(整備計画)

大洲地点における戦後最大洪水**5,000m³/s**に対して、既設野村ダム・鹿野川ダム(改造含む)・山鳥坂ダムの建設によるダム群により、**1,100m³/s**の調節を行い、肱川下流全川に渡り洪水位の低下を図る。

■環境

鹿野川ダム改造(改造含む)、山鳥坂ダムに河川環境容量を設け、アユをはじめとする動植物の生息・生育や良好な水質の確保等、流水の正常な機能を維持するため必要な流量として、大洲地点においては、冬期以外は概ね**6.5m³/s**、冬期は概ね**5.5m³/s**を確保する。また、鹿野川ダム直下地点においては、冬期以外は概ね**6.0m³/s**、冬期は概ね**3.2m³/s**を確保する。



河川整備計画における対策イメージ

H21年渇水時流量相当:約3m³/s



CGIによる合成

正常流量相当:約6.5m³/s



大洲地点の様子

事業概要

おおずし ひじかわちょう やまとさか

かわべ

○場 所：愛媛県大洲市肱川町山鳥坂(肱川水系河辺川)

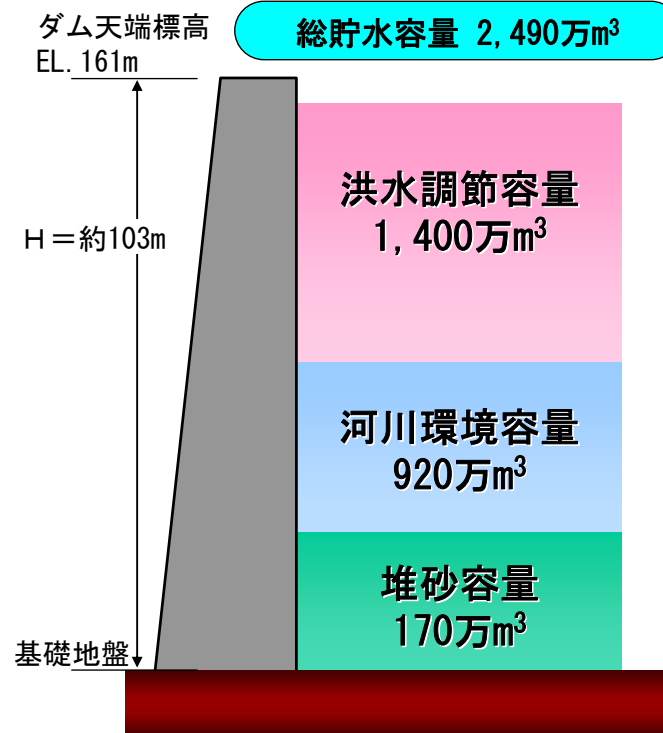
○目 的：洪水調節(肱川の洪水防御)

流水の正常な機能の維持

山鳥坂ダム建設予定地

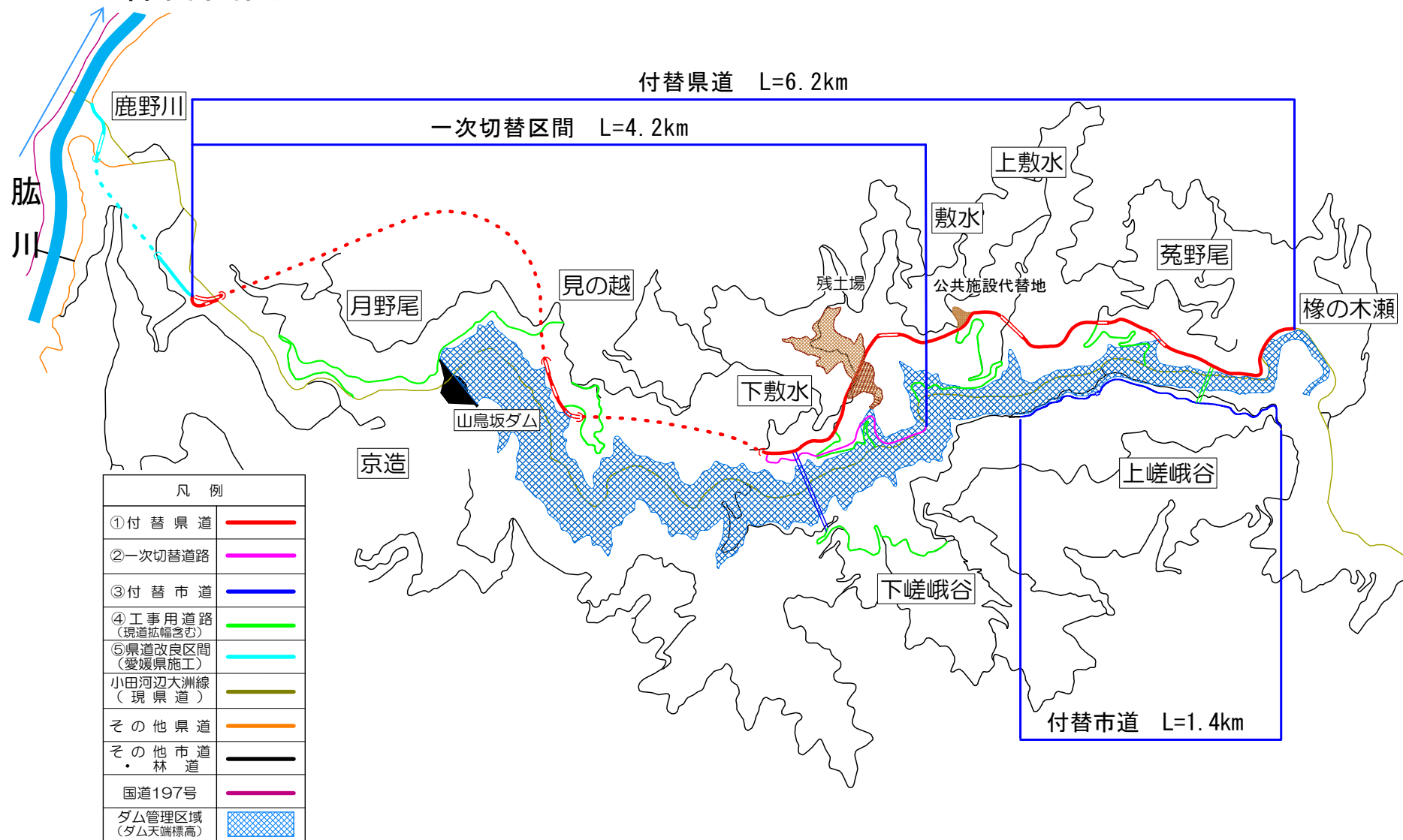


山鳥坂ダム容量配分図



事業概要

■ 全体計画図



事業の進捗状況

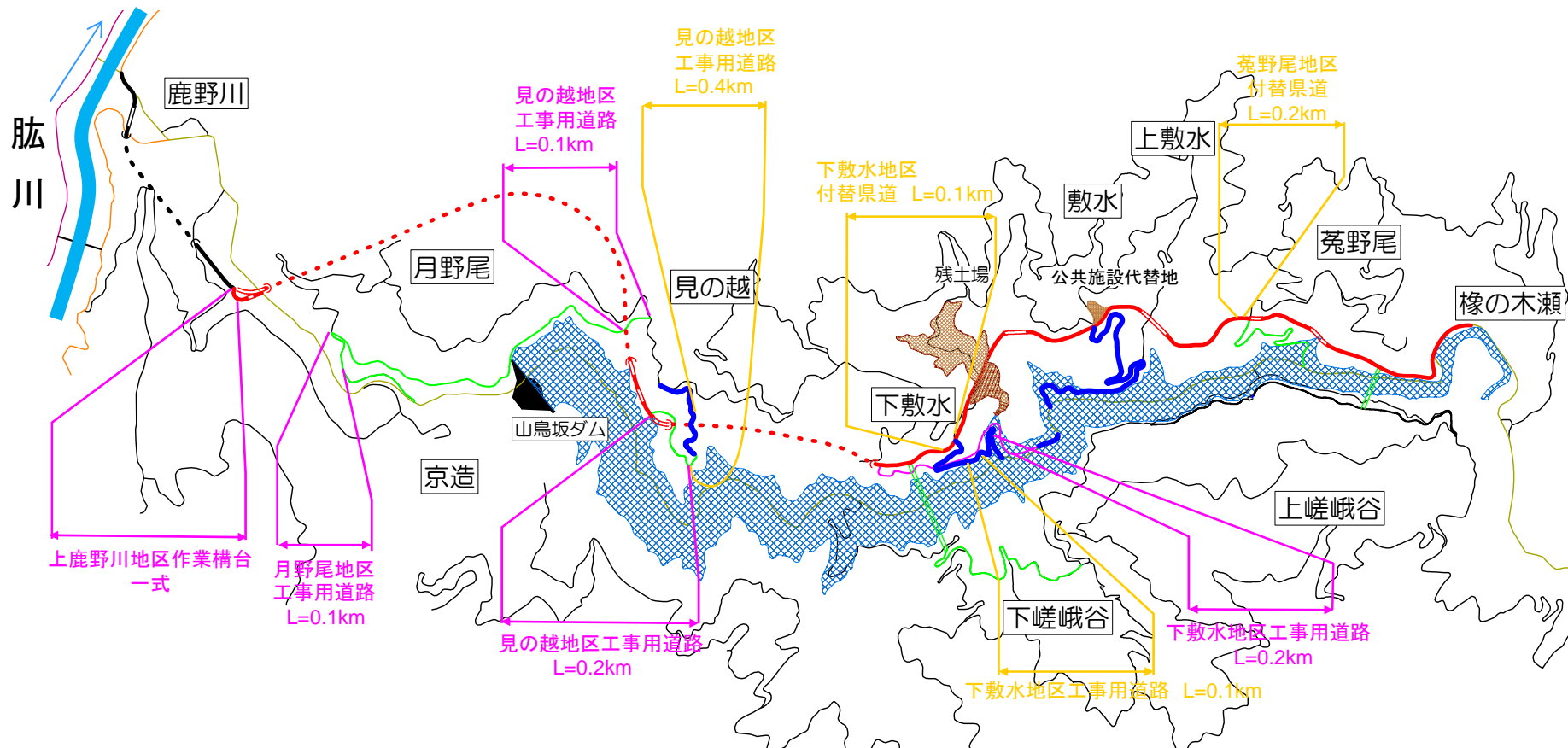
(平成28年6月末時点)

主な経緯	H20.5 環境影響評価の手続き終了 H25.1 事業継続の決定 H25.3 用地補償基準妥結			
用地取得 (約139ha)	56% (77ha)			
家屋移転 (33戸)	85% (28戸)			
付替県道 (約6.2km)	8% (約0.5km)			
付替県道に関する 工事用道路 (約3.2km)	25% (約0.8km)			
ダム本体及 び関連工事	仮排水トンネル	基礎掘削	コンクリート打設	試験湛水

--- 用地取得
 --- 道路工事
 --- ダム本体関連

平成27・28年度の主な実施内容

(付替県道・工事用道路工事等)

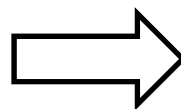


	完成
	平成27年度工事
	平成28年度工事

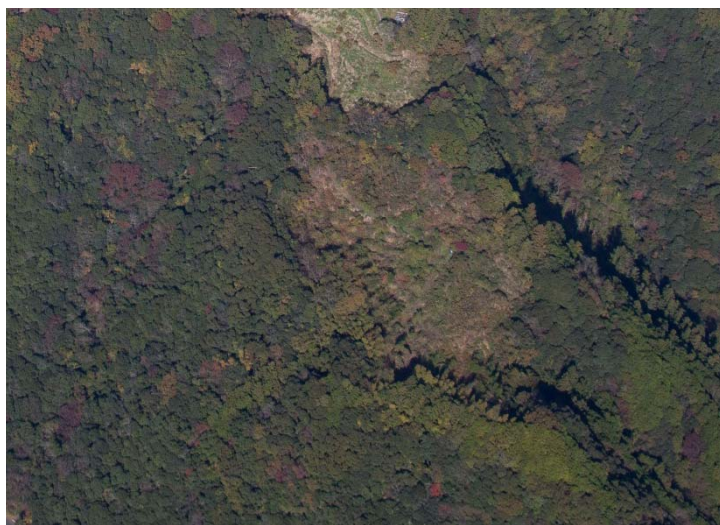
平成27・28年度の主な実施内容 (工事用道路工事)(平成27年度工事)



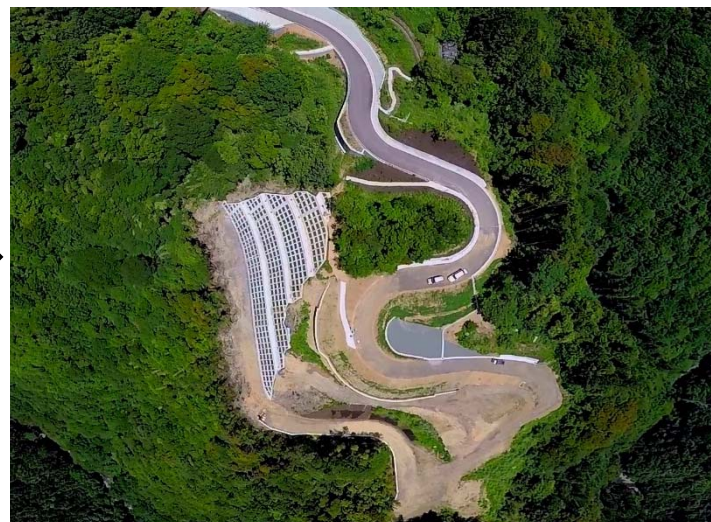
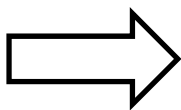
下敷水地区工事用道路 着手前



下敷水地区工事用道路 着手後(平成28年3月)



見の越地区工事用道路 着手前

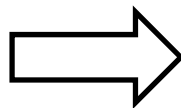


見の越地区工事用道路 着手後(平成28年3月)

平成27・28年度の主な実施内容 (付替県道工事)(平成27年度工事)



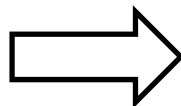
下敷水地区付替県道 着手前



下敷水地区付替県道 着手後(平成28年3月)



菟野尾地区付替県道 着手前



菟野尾地区付替県道 着手後(平成28年3月)



地表地質踏査



地質観測(孔内傾斜計等)



ボーリング調査



横坑内岩盤調査

平成27・28年度の主な実施内容

(環境調査・基礎調査等)

- 事業実施にむけて必要な情報を収集・整理するため、環境調査・基礎調査等を継続的に実施

環境調査(動物・植物)	各種自然環境について現地調査を継続的に実施し、モニタリング・保全対策を実施
地すべり観測	孔内傾斜計を設置し継続的に観測
水理水文観測	水位・流量・雨量等を継続的に観測
地下水調査	地下水変動を継続的に観測
水質調査	水質を継続的に観測
地質調査	ダムサイト周辺の地質調査を実施

環境調査(猛禽類)



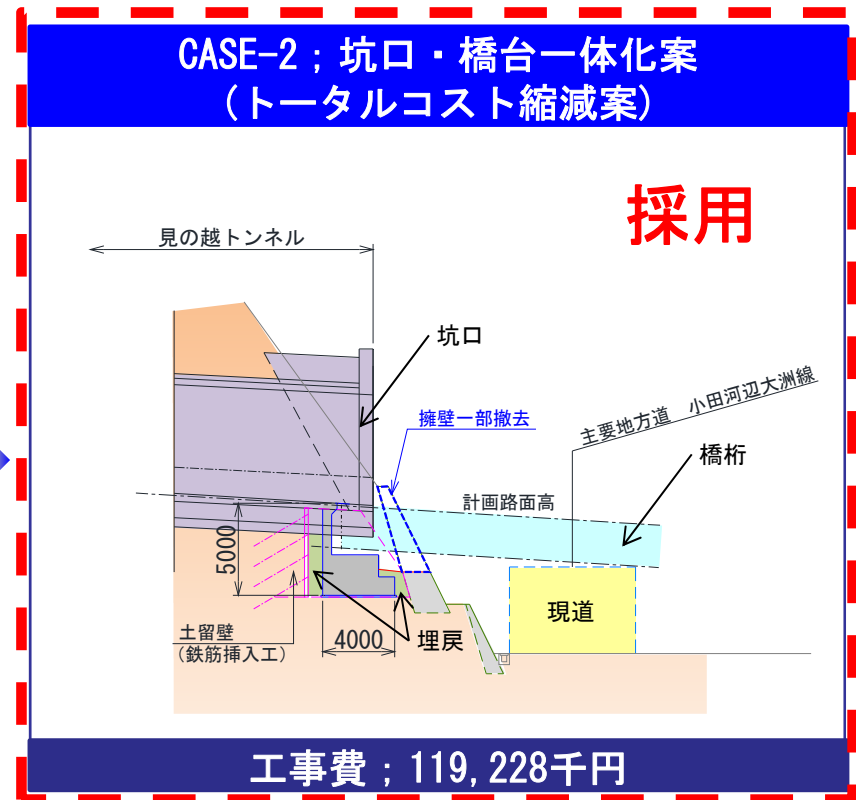
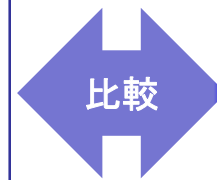
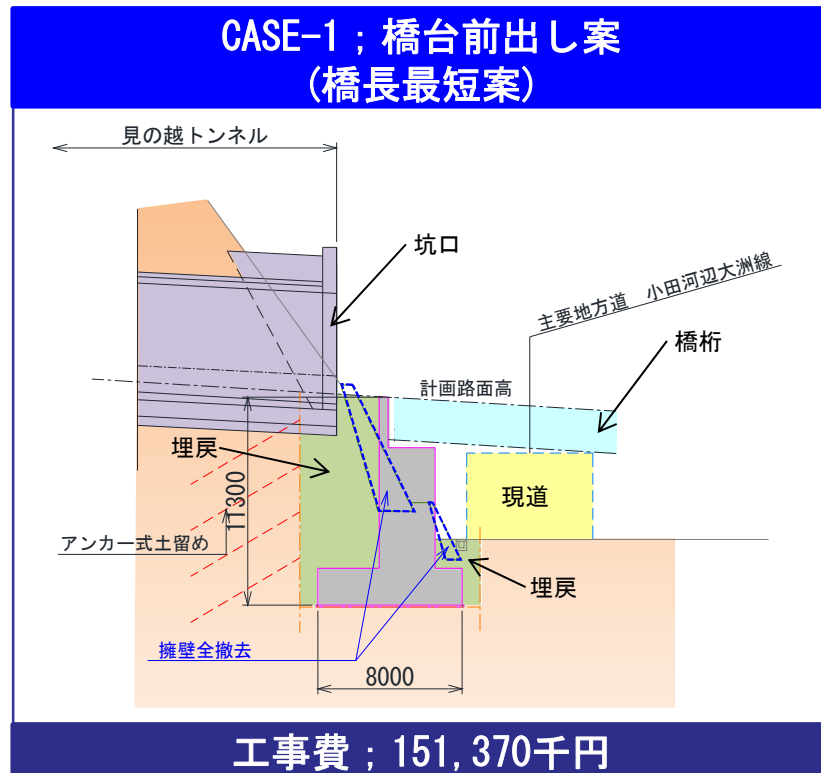
地すべり観測(孔内傾斜計観測状況)



コスト縮減

(上鹿野川第1橋)

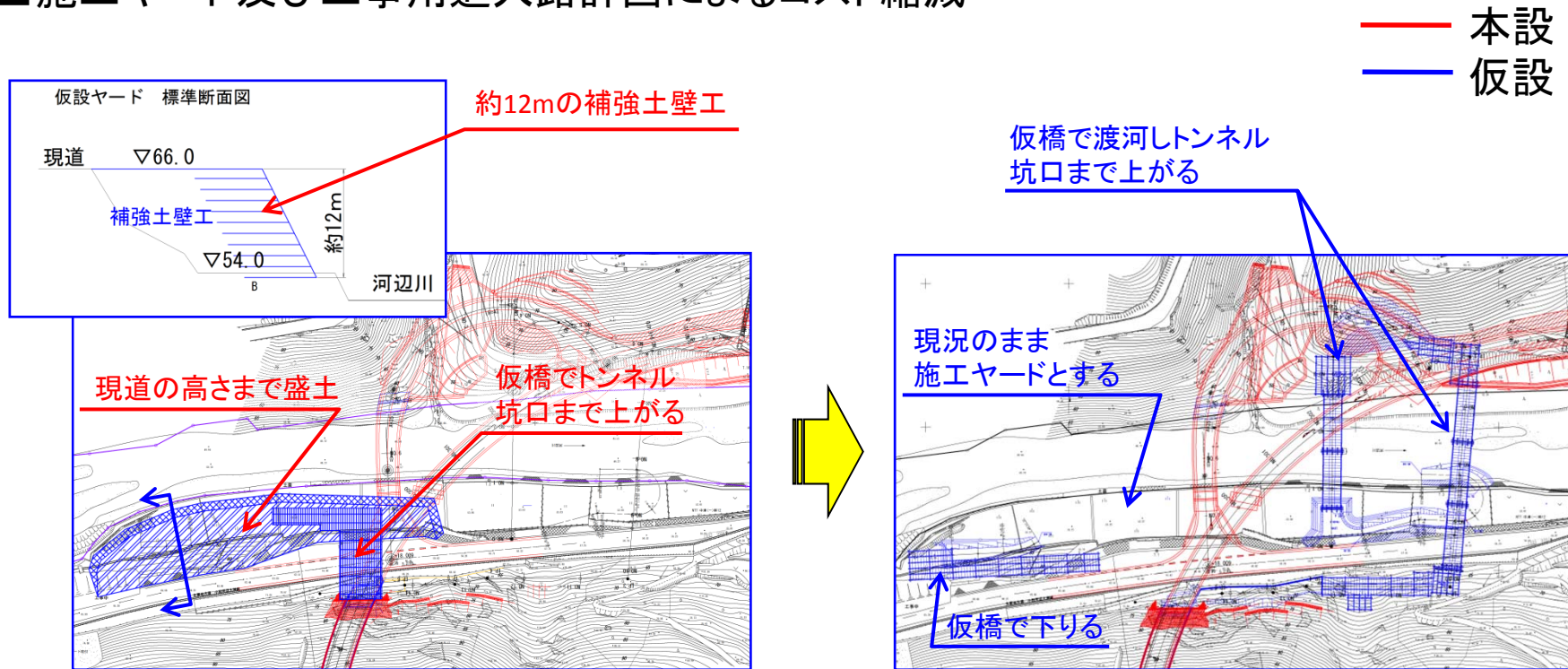
■坑口・橋台一体化構造によるコスト縮減



評価項目	CASE-1	CASE-2
橋長	短	長
橋台	大	小
切土影響	大	小
コスト	高	安

上鹿野川第1橋の橋台とトンネル坑口部を一体化することで、橋長は長くなるものの、橋台掘削の影響が小さくなり、橋台背面の土留め工やA1の橋台規模が縮小され約3,200万円のコスト縮減になるとともに、施工中の現道交通の安全性が向上する。

■ 施工ヤード及び工事用進入路計画によるコスト縮減



見の越トンネルまでの進入路の設置方法について、当初計画では、県道下の平場より、盛土構造で施工ヤードを構築することとしていたが、盛土の規模が非常に大きく(高さ約12m)、橋梁工事との並行作業が困難になることから、工事用進入路を仮橋構造としたことで、約4,000万円のコスト縮減となる。さらに、仮橋構造であれば、当該仮橋は上鹿野川第1橋梁及び上鹿野川第2橋梁の施工にも使用でき、さらなるコスト縮減や工期短縮が可能になる。